

外来水生植物試験駆除（ハーベスター）の視察報告

- ・日時/2020年6月30日（火） 10時15分～12時40分
- ・場所/手賀沼 大堀川河口部の北側
- ・参加者/滋賀県琵琶湖環境部：中井克樹氏、県立中央博：林紀男氏、
千葉県水質保全課：小田上孝行氏、いであ株式会社：高橋栞氏
美手連 6名
- ・船（みずすまし号）の運行/古川船長、生馬補助員（アルバトロスヨットクラブ）
- ・報告/小倉久子

※この見学は手賀沼流域フォーラム調査事業の一環です。

当日は午後から風と雨という予報が出たため、視察をすべて午前中に変更して行った。

みずすまし号で我孫子手賀沼漁協の栈橋を出発し、大堀川河口部のハーベスター刈り取り作業現場と柏土木栈橋でのトラックへの積み替え作業を視察した後、車で移動し、刈り取った水草の保管場所を視察した。

＜水草刈り取り船の仕様 等＞

- ・機種名：ハーベスター （ヤンマー AWH 2000）
- ・駆除方法：巻き上げによる。
- ・駆除能力：約 200～400 m²/日
- ・今回の試験駆除面積：約 1,000 m²

＜視察報告＞

1. 刈り取りの下準備

刈り取り作業は、再繁茂を防ぐため、底泥中に拵がっている根の部分まで引き抜く必要がある。また、焼却処分のためには、泥を落とす必要がある。そのため、ハーベスターの刈り取り作業の前に、ウォータージェットを用いて人力で植生の根元部分の泥を洗い落としていた。



この作業をきちんと行うことが、
機械駆除では非常に重要である。
作業スタッフの事前講習が必要。

奥の3人が泥の洗い流し作業。白いカゴを
持っている人がちぎれた茎や葉を掬い取
っている。



2. ハーベスターによる刈り取り作業



- ① 先端の紺色の部分を回転させて、水草を絡め取る。
- ② 茶色い部分がベルトコンベア。ゴム製で、滑り落ちない。
- ③刈り取った水草は操縦席の下に貯めておく。

★ さあ、行くぞ！



★ 先端部を下げて・・



★ 水草をモリモリ食べます。



★ 操縦席の下(白い箱のようなところが投入口)に貯め込みます。



★ 流れていく水草をタモ網でキャッチ！

3. 運搬船への積み込み

ハーベスター後部のベルトコンベアを使って、モッコを上げた運搬船に積み込む。



★ 船が沈んでしまわないか、心配なくらい、山もりに積み込んでいました。



ハーベスターは外輪船で、外輪（茶色の浮き輪のような部分）を回転させて航行する。スクリーンは、水草（特に沈水植物）が絡まってしまうために使えない。

また、航行に必要な水深は約 40cm。

4. 栈橋まで運搬

船からこぼれそうなくらいたくさん積んで、柏土木の栈橋まで運ぶ。運搬船は2隻であったが、駆除工区から栈橋までの距離が長いために時間がかかり、ハーベスターが運搬船の到着を待って手持ちぶさたのこともあった。移動距離（時間）を考えて、運搬船の隻数を決める必要がある。



5. クレーンでトラックに積み替え

栈橋ではクレーンがモッコに入った水草を吊り上げて、待機していたトラックに積み替えた。トラックの荷台にうまく着地させるために、ちょっと試行錯誤が必要なようだ。



6. 保管場所

保管場所は、柏市箕輪新田地先で、場内はアスファルト舗装されていた。

トラックから降ろされた水草は、薄く広げられて、乾燥・減量化する。

乾燥後は、今回は我孫子市クリーンセンターにて焼却を行う。

★ 全くと言っていいほど、泥がついていない！ また、ひげ根まできちんととれているようです。
今回の作業スタッフの皆さんは、わざわざ琵琶湖から来て下さったベテランさんなので、さすが！





★ 水草の間にいたタウナギ。けっこうたくさん入っているとか。
これはすでに昇天していました。



飛散防止のため、水草はブルーシートできちんと覆って保管し、水気が切れしだい、我孫子市クリーンセンターに搬入する。

試験駆除第1日目の6月29日には、3区画分（ブルーシートの正方形3つ分）の水草を刈り取ることができたとのことであった。

＊ 視察終了後、午後は水の館の研修室で、中井克樹さんを囲んで、質疑や意見交換が行われた。ちょうど視察が終わる頃から雨が降り出し、大変ラッキーで有意義な一日であった。